

令和3年度学校評価の結果をふまえた今後の改善方策

【今年度の学校評価の分析】

生徒については、多くの評価項目の数値が向上しているが、保護者の評価項目においては、昨年度よりも数値が下がっているもしくは横ばいという状況であった。教職員については、ほぼ多くの評価項目において昨年度より数値が向上した。今年度もコロナウィルス感染拡大の影響を受け、教師側の努力によって学期開始が遅れたこと、行事等教育活動に大幅な制限を受けたこと等により、本校の教育活動制限のある行事は行うことはできたが、保護者にとっては物足りないという傾向が出ているのではないかと分析する。また、本校の大きな柱である「地域貢献活動」、「ボランティア活動」、「学校行事」の保護者の評価項目の数値が下がっている点については、保護者に対して情報発信を積極的に行う必要があると考える。現在、次年度に向け、現状の中で最大限できる活動を計画中である。

今年度は、教員側の情報モラルの育成、優れた芸術鑑賞、日本の文化に関する学習の機会の数値が下がっており、校内外の研修や研究授業・生徒による授業評価アンケート等の実施により、魅力ある授業に向けた実践的な指導力の向上については、昨年度に引き続き授業改善や資質向上に関する評価項目の評価が向上した。次年度も、この取組をさらに継続する。

【改善方策】

今年度の学校評価の結果を踏まえ、今後の改善方策として、次年度に以下の取組を実施する。

1 組織的な学校運営の推進

(1) 拡大学年団の配置について

拡大学年団配置上の工夫により「各部・学年・学科の連携を図り、校務分掌が組織的に機能している。」という評価項目の数値が、昨年度に引き続き今年度も上がり評価が改善されている。

令和4年度も拡大学年団配置に際して以下の工夫を継続する。

- ① 各学年の授業を担当している教員を優先的にその学年に配置する。
- ② 新入生の学校不適應に対処するため、1学年に保健部長、養護教諭を配置する。
- ③ 3学年に進路指導部長と昨年度の3学年担任及び教務部長を配置する。

※ 教員配置予定

	学年団	拡大学年団	合計
1 学年	8	7	1 5
2 学年	8	8	1 6
3 学年	8	8	1 6

2 教員の資質向上について

今年度、昨年度よりも授業評価アンケートを実施し、指導法の改善に取り組んだ結果、授業改善「魅力ある授業に向けた実践的指導力の向上に努めている。」という評価項目の評価が向上した。

また、資質向上に向けた各種研修を積極的に実施したが、「学校の諸課題について校内研修を計画的に立案・実施し、専門性の向上を図る。」という評価項目の評価の数値が若干下がっている。

そのことを受けて、令和4年は以下の取組を行う。

- (1) 授業評価アンケートを踏まえた分析と指導法の改善。
- (2) 公開授業や研究授業の活性化。
- (3) 教育研修所等が主催する、教員の資質向上に向けた各種研修会や発表会への積極的参加とそれを基にした校内研修会の推進、また、外部講師を招いての教員対象校内研修会の実施。特に、次年度は、BYODが始まり、生徒1人1台端末を持参することからタブレット端末をはじめとするICT活用能力のより一層の向上を目指す。

3 地域の中学校の要望と生徒指導の視点を反映できる学校評議員の委嘱

平成30年3月で退職された地域の中学校長が佐用町青少年育成センターの経験を有していることから、令和年度も継続して学校評議員に委嘱し、中学校の要望をより吸い上げるとともに生徒指導の視点からの意見を反映できる学校評議員会の委員構成とした。